

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
（分担）研究報告書

難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形（リンパ管腫）・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究

研究分担者 杠 俊介 信州大学医学部形成再建外科学教室 教授

研究要旨：分担研究者としての研究活動、また日本血管腫血管奇形学会理事長として、班会議、国内外関連学術集会、患者会参加型企画において講演や司会を行い、当該難病についての知見を創出蓄積し、社会的に啓発した。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名
（分担研究報告書の場合は、省略）

A. 研究目的

長期にわたり患者のQOLを深刻に損なう難治性血管腫・脈管奇形に関して、国内外の団体の意見を統合し、広く社会に啓発し、より安全で効果的な治療法を適切な形で患者に提供することにつなげる。

B. 研究方法

班会議、学会、患者会参加型討論会などにおいて口演や司会をし、意見交換を行い合意形成に務めた。難治脈管奇形への採寸オーダーメイド弾性ストッキングの長期着用の臨床研究の結果を国際学会にて公表した。静脈奇形に対するオルダミン硬化療法についての多施設医師主導治験の結果を公表し保険収載に向けた活動を関連各学会と連動して行っている。当該疾患に関する国際学会とわが国の学会との連携を推進する活動を行った。

（倫理面への配慮）

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守した。

C. 研究結果

肥大を伴う混合型脈管奇形に対する採寸オーダーメイド弾性着衣長期着用治療および静脈奇形に対するオルダミン硬化療法の安全性と有効性についてのエビデンスを多施設共同の臨床研究と医師主導治験により創出し、公表することができた。

国際血管腫脈管奇形学会の学術委員にわが国の研究者2名を加えることができた。

D. 考察

難治性血管腫・脈管奇形には様々な病態の疾患があり、個々に対して適した治療と社会的扶助が求められる。学会や公開企画を通してその啓発持続が重要である。

また、具体的な治療を安全効果的に適切な形で患者に届けられるように継続的研究活動が必要である。

E. 結論

難治性血管腫・脈管奇形についての社会啓発および治療法の開発と適切使用についてのエビデンスを創出できた。

F. 健康危険情報 総括研究報告書に記入

G. 研究発表

1. 論文発表

Ozaki M, Nomura T, Osuga K, Kurita M, Hayashi A, Yuzuriha S, Aramaki-Hattori N, Hikosaka M, Nozaki T, Ozeki M, Ochi J, Akiyama S, Kakei Y, Miyakoda K, Kashiwagi N, Yasuda T, Iwashina Y, Kaneko T, Kamibeppu K, Soejima T, Harii K: Effect and safety of ethanolamine oleate in sclerotherapy in patients with difficult-to-resect venous malformations: A multicenter, single-arm study. PLoS One. 2025 Jan 31;20(1):e0303130.

2. 学会発表

Yuzuriha S: In what situations is surgical intervention necessary for the treatment of vascular anomalies? The 76th Annual Congress of the Korean Surgical Society, Seoul, Oct 31, 2024.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し